

統計体系 (6)  
金融・対外・指数・推計

別所俊一郎

May 23, 2007

# 今日扱う統計

- 貿易統計（通関統計）、外貨、国際収支状況
- マネーサプライ統計、貸出・預金統計、マーケット関連
- 鉱工業生産指数、第3次産業活動指数
- 地域メッシュ統計

## 貿易統計（通関統計）

<http://www.customs.go.jp/toukei/info/index.htm>

<http://www.boj.or.jp/type/exp/stat/exbs02.htm>

- 関税法の規定に基づいて，日本から外国への輸出・外国から日本への輸入について，税関に提出された輸出入の申告を集計
- 月次，速報に優れる．速報 輸出確報 輸入確報 確定と改定
- 金額・指数で発表され，フィッシャー型の価格指数も．
- ほぼ全数調査だが，20万円以下の少額貨物，見本・贈与・寄贈品等は含まれない
- 輸出は FOB（Free On Board），輸入は CIF（Cost, Insurance and Freight）
- 輸出入価格指数は輸入単価をベースにしているが，輸出入物価指数は品質調整をしているので，輸出入価格指数を輸出入物価指数で割ると，輸出入品の高付加価値化を計測できる

# 対外及び対内証券売買契約等の状況

<http://www.mof.go.jp/1c009.htm>

- 指定された大口投資家の証券売買額を集計した統計
- 週次，月次（指定報告機関ベース）
- 05年7月から，国際収支統計に合わせて対内・対外の分類基準を建値通貨から証券発行体の居住性に変更
- 直接投資の統計
  - 「対外及び対内直接投資状況」が対外・対内直接投資の届出書・報告書をもとに作成されていた．1億円相当額以下の対外直接投資は報告の対象外なので記録されない
  - 05年3月分まで「対外及び対内証券売買契約等の状況」の関連統計として発表
  - 05年度分からは「国際収支統計」が国・地域別，業種別の直接投資の計数を公表

- 外貨準備等の状況
  - 政府と日本銀行が保有する対外資産の合計
  - 月次
  - 内訳は，金，交換可能通貨，SDR（IMF 特別引出権），IMF リザーブトランシュ
- 外国為替平衡操作の実施状況
  - 政府・日本銀行の外国為替市場への介入額を示す統計．介入通貨別．
  - 四半期．月次データは営業日ベース

<http://www.mof.go.jp/1c004.htm>

- 一定期間における一国のあらゆる対外経済取引を体系的に記録した統計。日本では「外国為替及び外国貿易法」の規定に基づき、財務大臣から委任を受け、日本銀行が集計・推計。
- 月次。確報は四半期。
- 取引は居住者と非居住者との間で行われ、(1) 財貨・サービス・所得の取引、(2) 対外資産・負債の増減に関する取引、(3) 移転取引に分類できる
- IMF の国際作成基準に従って体系的に記録される
- 複式簿記の原則に従う：日本から外国に 100 億円の製品を輸出して代金を受け取る場合、経常収支の輸出に 100 億円（経常収支 100 億円）、資本収支の預け金に 100 億円（資本収支-100 億円）記録される

# 国際収支状況

- 貿易統計（通関統計）とは少し相違

	通関統計	収支状況
評価建値	輸出 FOB , 輸入 CIF	輸出入 FOB
運賃・保険料	CIF に含む	サービス収支
計上範囲	関税境界を通過	所有権移転
輸出計上時期	出港予定時	所有権移転時
輸入計上時期	許可時	所有権移転時

- 季節性が強いので前年同期比か季調値を使う
- 2次統計なので誤差脱漏を伴う
- ストック統計として対外資産負債残高が推計される

<http://www.boj.or.jp/type/exp/stat/exms01.htm>

- 非金融法人・個人・地方公共団体など通貨保有主体が保有する現金通貨や預金通貨など『通貨』を集計したもの．月次．
- 中央政府や金融機関が保有する預金等は対象にならない
- **M1**，**M2+CD**，**M3+CD**，広義流動性の4つの指標が公表される．ストック統計．
- 平残（月中平均残高）と月末残高が公表
- **M1**・**M2+CD**に含まれる現金通貨・預金通貨・準通貨・**CD**には，日本銀行券発行高等の日銀の業務統計やマネーサプライ関連調査表（金融機関より調査表を収集）を利用して作成しており，ほぼ全数調査に近い極めて精度の高い統計



## マネーサプライ統計

- M2+CD 以外の広義流動性については，通貨保有主体別の保有統計が存在しないなどの事情により推計に頼る部分が多い
- 季節性があるので前年同月比や季節調整値が使われるが，シフトイン・アウト等もあるので，季節調整済み3ヶ月前比年率も使われる

# マネタリーベース，マネタリーサーベイ

- マネタリーベース
  - 日本銀行券発行高・貨幣流通高・日銀当座預金の合計からなる「中央銀行の供給する通貨」を示す統計
  - 金融部門の保有現金が含まれる（マネーサプライには含まれない）
- マネタリーサーベイ
  - **M2+CD** の変動を，金融機関等の資産・負債の変化と関連付けることを目的とする統計
  - 現金通貨を発行する中央銀行と，預金通貨などを発行する預金通貨銀行の諸勘定を統合・調整したバランスシートで，負債側には **M2+CD**，資産側には対外資産・国内信用が計上される

<http://www.boj.or.jp/type/exp/stat/exyo.htm>

- 預金者別預金

- 月次・国内銀行・外国銀行在日支店・信用金庫・労金・農林中金・商工中金・信金が対象
- 国内銀行・信用金庫については，半期ベースで金額階層別・詳細預金者別が公表される．中央政府向け貸出は，国内銀行について参考値が出るのみで含まれない

- 貸出先別貸出金

- 月次・国内銀行・外国銀行在日支店・信用金庫・労金・農林中金・商工中金・信金が対象
- 国内銀行・信用金庫・農林中金・商工中金・政投銀・JBIC・国金公庫・中小公庫・沖縄公庫については，半期ベースで業種別・企業規模別が公表される

<http://www.boj.or.jp/type/exp/stat/exyo.htm>

- 貸出・資金吸収動向等
  - 月次．都銀 5 行，信託 4 行（三菱 UFJ 信託，みずほ信託，中央三井信託，住友信託），埼玉りそな銀行，新生銀行，あおぞら銀行，地銀 64 行，第二地銀 46 行，信用金庫 290 庫が対象
  - 貸出動向（平残）と CP 発行状況（未残）が発表される．金融機関向け貸出と中央政府向け貸出は含まれていない
- 民間金融機関の資産・負債
- 全国銀行預貸金速報
  - 月次．都銀（埼玉りそな銀行含む），地銀，第二地銀，信託銀（三菱 UFJ 信託，みずほ信託，中央三井信託，住友信託，野村信託，三井アセット信託，りそな信託），新生銀行，あおぞら銀行が対象
  - 銀行の預金・貸出金残高などを集計し，全国銀行の総預金，貸出金，債券純発行額の月末残高を公表

## マーケット関連

- 貸出約定平均金利：国内銀行と信用金庫を対象に，約定金利を加重平均したもの
- プライムレート，住宅ローン金利
- 市場金利
  - コールレート：ON 無担保コールレートが日々の資金需要を反映する短期金利の代表
  - TIBOR ( Tokyo Inter-Bank Offered Rate ): 東京の銀行間取引金利
  - 長期国債流通利回り：長期金利の代表的指標
- 外国為替相場
- 実効為替レート：為替レートを貿易ウェイトで加重平均し指数化
- 東証株価指数 ( TOPIX ) ，日経平均株価

# 指数算式

- 指数：個々の品目の値を，全体に占めるウェイトを用いて加重平均し，基準時点での値を 100 として基準化したもの．全体に占めるウェイトも時点によって変化する．
- ラスパイレス算式：基準時のウェイトを用いる．次の基準改定までウェイトを固定する固定基準ラスパイレス指数は，鉱工業指数や物価指数に用いられる．

$$P_{0t}^L = \frac{\sum_{i=1}^n p_{it} q_{i0}}{\sum_{i=1}^n p_{i0} q_{i0}}$$

# 指数算式

- パーシェ算式：比較時のウェイトを用いる．GDP デフレーターがパーシェ指数．

$$P_{0t}^P = \frac{\sum_{i=1}^n p_{it} q_{it}}{\sum_{i=1}^n p_{i0} q_{it}}$$

- フィッシャー指数：ラスパイレス指数とパーシェ指数の幾何平均．貿易統計の価格指数に採用

$$P_{0t}^F = \sqrt{P_t^L P_t^P}$$

# 指数算式

- 中間年バスケット方式：中間年のウェイトを採用
- 連鎖基準ラスパイレス指数：前年のウェイトを基準にした指数を掛け合わせたもの

$$\overline{P_{0t}^L} = P_{01}^L \times P_{12}^L \times P_{23}^L \times \cdots \times P_{t-1,t}^L$$



<http://www.meti.go.jp/statistics/data/h200001j.html>

- 鋳工業製品の生産・出荷・在庫の数量を指数化した統計。月次。
- 生産動態統計がおもな基礎統計だが，各種需給流通統計調査等の経済産業省実施の調査，他省庁・業界団体での調査を用いて作成。
- 生産（付加価値額ウェイト，生産額ウェイト），生産者出荷，生産者製品在庫，生産者製品在庫率，稼働率，生産能力，製造工業生産予測の8指数。
- 鋳工業指数であるが，景気動向把握のためには重要な指数。ただし，稼働率指数・生産能力指数・在庫指数は対象品目が少ないことに注意。
- 指数の測定単位は数量が基本（個数，重量トン等）。機械製品等はこの限りでない。橋梁・船等の生産は進捗ベースで分割計上，出荷は引渡ベース

<http://www.meti.go.jp/statistics/data/h200001j.html>

- 基準時固定ラスパイレス指数なので，価格が下がって量が増えたものがあれば上方バイアスをもつ．新製品も反映されないなので，生産指数が下方バイアスを持つ可能性も
- 品質向上分は反映されないなので，実質 GDP とは乖離する可能性
- 稼働率指数は基準時の稼働率を 100 としたもので，稼働率の絶対水準を示さない
- 季節調整値も公表される

## 第3次産業活動指数

<http://www.meti.go.jp/statistics/data/h2v3000j.html>

- 第3次産業の動向を総合的に把握し，サービスの生産活動を表す指数．基礎統計の制約，生産概念が一律でないことから「活動指数」と呼ばれる．月次．
- 広範囲をカバーしているが，公務・宗教等は含まない
- 指数の測定単位は数量が基本だが，生産を表す金額・生産を代用する数量・生産を代用する金額が次善手段として用いられる
- 季節性があるので，前年同月比や季節調整値を用いる

<http://www.meti.go.jp/statistics/kaiseki/h2abalance.html>

- 国内の全産業の生産活動状況を供給面から捉えるために、鉱工業生産指数・第3次産業活動指数・農林水産業生産指数・建設業活動指数・公務等活動指数を加重平均した加工統計。月次。
- 2次統計を組み合わせた統計なので、方向感を表す指数。
- 個々の指数は付加価値ではなく、産出高ベースの経済活動を示す

# 景気動向指数 Indexes of Business Conditions

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/di-summary.html>

- 生産，雇用など様々な経済活動での重要かつ景気に敏感な指標の動きを統合することによって，景気の現状把握及び将来予測に資するために作成された統合的な景気指標
- 景気基準日付判定会議による景気基準日付設定の基礎になる
- DI：上昇を示している指標の割合を示す．先行系列 12，一致系列 11，遅行系列 6 が採用されている．DI の水準自体は景気変動の大きさを示さない．
- CI：量的な動きを合成した指標

# 地域メッシュ統計 Grid Square Statistics

<http://www.stat.go.jp/data/mesh/index.htm>

- 国土を緯度・経度により方形の小地域区画（約 1km，500m 四方）に細分し，統計調査の結果を対応させて編集したもの．基準地域メッシュは地球上のどこにあるかによって大きさが異なる．
- 地域の実態を同一の基準で把握することができる（行政区画の変更の影響を受けない）ので，都市計画や地域開発，防災・環境計画，公害対策等の企画・立案に用いられる
- 国勢調査，事業所・企業統計調査，住宅統計，農林センサス，工業統計，商業統計，自然環境保全基礎調査，宅地利用動向調査の地域メッシュ統計が存在